

1 本年度の学校評価をふりかえって

創立24年目を迎えた今年度は、教職員の協働体制を強化し、「ことばは心」を重点に据えた教育活動の改善に努め、学校教育目標の具現化を目指してきた。健やかな心と体の育成、確かな学びを育む学習指導の充実、地域や保護者の協力による学校行事等の開催や様々なボランティア活動からの支援、自分の在り方や将来の夢へつなぐキャリア教育への取組等、本校の特色を生かし、地域に開かれた学校づくりを推進するとともに、よりよい学校教育活動につなげるために、今までの実践を見直し、新たな教育課程を模索する積み重ねであった。今後も保護者や地域の理解と協力を得ながら活気あふれる学校づくりを継続していきたい。

2 評価結果の概要

分野	評価項目	取組状況と成果・課題	評価	改善策	学校関係者評価の意見
教育課程・学習指導	豊かな心とたくましさを育む教育活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・「ことばは心」を最重点として、学校経営に取り組み、教育活動全体を通し、多様な人々と触れ合い、体験的に学ぶ活動を重ねて、周囲を優しく思いやる心の育成に努めてきた。ことばを通した人と人をつなぐ心の交流の充実を、継続実践していきたい。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・ことばを大切にしたい指導を継続しながら、自他の生命を尊重し、よりよく生きようとする心の育成が、健やかな成長に結び付くと考え、家庭や地域社会と連携を深め、道徳教育の一層の改善と心身のたくましさにつながる取組を工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・元気よく挨拶する子どもが多い。場に応じて、自ら進んで挨拶する態度を養いたい。 ・キャリア教育の充実を図るとともに、実践の様子や子どもの変容等を保護者に伝える工夫が必要である。
	学力向上に向けた指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・書く活動を通して、自分の考えを明確にし、集団での学び合う活動を重視することにより、順序立てて思考する力が子どもに身に付いてきた。 ・一人一人の基礎的・基本的な学力を十分に定着させるとともに、読書習慣の形成に工夫を図りたい。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・書く活動や交流活動を効果的に位置付ける授業展開を全職員で研修し合い、全校共通実践の充実を図る。 ・読書環境の整備を進めながら、ブックトーク、読み聞かせ等の充実を図り、子どもの読書活動をさらに活性化するように努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「分かる、できる、楽しい」授業として、子ども同士で学び合う学習が定着している。 ・家庭に働きかけ、保護者の協力を仰ぎながら、読書の広がりや習慣化への方策を工夫することが有効である。
生徒指導	互いに心が通い合う集団づくりの推進	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちの自己有用感を高め、居場所のある学級づくりに全職員で取り組み、互いのよさを認め合う雰囲気が各学級に根付いてきた。 ・「いじめ防止基本方針」に基づき、いじめや暴力等を未然に防ぎ、一人一人が生き生きと活躍する学校づくりに計画的に努めてきた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちが所属感や自らの存在感を味わうことができる経験を、学級学年だけに留まらず、全校に広げるように、異学年交流等の取組の一層の充実を図る。 ・「いじめは常に起こり得る」という危機感を高め、実践の改善を図り、未然防止と早期発見に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・まちがいや失敗を茶化す雰囲気はなく、互いに認め合い、思いやる心が育ち、温かい学級を作り上げている。 ・異学年交流は、自分自身の成長を実感できる機会であり、子ども主体の充実した実践の継続を期待する。
家庭・地域との連携	家庭や地域社会との連携を重視した教育活動の展開	<ul style="list-style-type: none"> ・稲作体験や近隣施設等を活用した体験活動を通して、子どもたちは地域の自然や人々の温かさに触れながら、ふるさつを見直し、感謝する心を膨らませることができた。 ・地震や火災、不審者対応の避難訓練に加え、クマの出没等への対応も求められたが、家庭との連携を図り、安全に対応することができた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・各学年の学習内容との関連を図り、豊かな自然や地域の人材等を学習活動に取り入れ、“ふるさと御所野”と触れ合える体験活動を系統的に構築し、継続する。 ・毎日の交通安全指導や避難訓練、引き渡し訓練など、子どもの安全安心を保障するために、家庭や地域社会との連携を一層深める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校段階で進学先の選択と向き合い、将来について親子で話し合う機会が多い。学校からの情報や教育相談等が重要である。 ・日中、両親不在の家庭が多く、子どもの安全のためにも地域社会や学校との協力は欠かせない。
学校間連携	地域の幼稚園や保育園、中学校との校種間連携の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・校種間を越えた職員同士の連携を図り、子どもたちの不安等を軽減し、自信を深めながら就学、進学できるための取組に努めた。 ・小中教職員の協働体制を確立し、義務教育9年間を見通した指導計画に基づいた実践を継続することができた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・「子どもたちにとって価値ある活動」という視点で実践を見直し、子どもが自己有用感を味わえることができる取組を工夫する。 ・発達の段階に応じて学習や生活に関する指導計画を改善し、連続性を意識した学校教育活動を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・御所野地区の教育環境の素晴らしさを自覚し、一層の活用を図りながら、発信していくことが求められる。 ・校種間交流は、笑顔の輪をつくり、心の広がりをもたらす。さらなる充実を図りたい。